

## 令和7年度第1回豊田市図書館協議会 議事録

日 時：令和7年7月14日（月）午前10時～12時5分

場 所：豊田中央図書館6階多目的ホール

出席者：委 員 9名

事務局 4名（図書館管理課）

関係課 5名（学校教育課、こども・若者政策課、  
こども家庭課、保育課、市民活躍支援課）

指定管理者 4名

### （1）令和6年度の取組実績等について

事務局：令和6年度の取組実績等について説明

委員：入館者数の減少について、人口が減少傾向であることを考慮した分析があるとよい。

新規登録者数のうち小学1年生を除いた人数を知りたい。

事務局：令和6年度 新1年生は2,249人のため、5,600人超。

委員：蔵書冊数が令和5年度と比較して令和6年度が減っているのは、適切な除籍によるということだが、新規購入数は。

事務局：昨年度の新規購入数は中央館16,581冊、ネットワーク館20,394冊。中央館及びネットワーク館の書架が過密状態である。機能を果たすためには適切な除籍を行わなくてはならない。新規購入が減っているということではない。

委員：除籍は、もったいないようにも思うが。

事務局：除籍する絵本、児童書は小中学校、こども園等に優先的に譲渡している。残ったもの、大人向けのものはリサイクルブックコーナーで自由に持ち帰ってもらえるようにしている。それでも残ったものは廃棄ということで古紙として売り払いしている。

委員：豊田市電子図書館で郷土資料がフリーで読める。こういうことを広めていくことも大事だと思う。

委員：こども図書室の延長時間は。

昨年度の入館者数を基にした1日の入館者数と、2（2）ア表中央館の入館者数を比較すると、この数字のほうが大きいから効果があったと考える。

事務局：こども図書室の延長時間の説明

委員：除籍の基準を知りたい。

地域の図書館が所蔵する郷土資料、ここでしか手に入らないものは、利用者がなくても除籍しないでほしい。

事務局 : 郷土資料は基本的には除籍しない。複本があるものは1～2冊残して除籍したり、10年以上経過したガイドブック、破れて使えないもの等を除籍している。

委員 : 2(1)イ文中「高校生ボランティアスクール」とあるが、高校生とすると高校生ではない同世代が入っていけないので、そういうことを考えてネーミングしてほしいと青少年センターに申し上げたい。

事務局 : 機会を作って伝えたい。

## (2)「豊田市子ども読書活動アクションプラン(2022～2025) 令和6年度取組実績と令和7年度取組計画」

事務局 : 豊田中央図書館運営基本方針について説明

関係課 : //

委員 : 取り組む事業が増えている。アクションプランは完了した事業はないか。

事務局 : 担当課が多方面から取り組んだ成果として、子ども読書活動は進んでいると思っている。評価が全てA以上。一つB。次期アクションプランでは事業の内容を見直してスリム化したり、時代にあったものを入れたりとかを考えている。

委員 : 1②6は対応を増やしていかなければならないところだと思う。「令和6年度取組実績等について」2(3)「認知症サポーター養成講座」がすごい。認知症かどうか分からないなかで実施するのは厳しいのではないか。実際に実施された感想と、そこで得たことは何かあるか。

指定管理者 : 認知症だけでなく、利用に困難を感じている方全体への対応につながったと思う。今まで対応に困ったなという方が、もしかしたら認知症かもしれないと考えられるようになったことと、心配しているかもしれない家族に連絡したほうがいいことなどを学んだ。アンケートなどから、カウンターの職員が親身に対応してくれた、やさしくなったというような声を聞いている。対応する職員も、認知症の方だけでなく全ての人への対応に非常に効果が得られたと考えている。

委員 : 4②22「令和6年度取組実績」にある読書指導者研修会、読書指導者。これの対象者、募集方法、研修内容について教えてほしい。

い。

指定管理者：5年に1度、読書指導者養成講座を行っている。読み聞かせ経験が概ね10年以上ある方が対象で、12回のカリキュラムを修了し、館長が認定した人を読書指導者と呼んでいる（その読書指導者が毎年受講する講座が読書指導者研修会である）。豊田市内外でも講師として活躍できるレベルで、読み聞かせができるだけでなく、本の選び方、読み聞かせの指導ができる力、かなりレベルの高い方を読書指導者として認定していて、活躍してもらっている。

委員：承知した。

委員：1②6中点7～8について。保見交流館とあって、次年度の方向性「継続」とあり、このほかの地域の交流館はどうか。

関係課：保見交流館は地域に外国籍の方が多いので意識して実施しているが、別の交流館で“配慮”を意識して何かテーマを持って実施しているということはない。

委員：外国籍のこどもが増えている。地域との関係というところも、交流館の中で絵本を通してという関係というところも、これから見据えていくといいのかなと個人的には思っている。

委員：外国籍若しくは外国語が母語のこどもたちがたくさんいるなかで、たくさんいる地区じゃないけれど別な言語を話しているこどもたちが、大人たちがいるということを知る機会にもなると思うので、ぜひ外国語のものも交流館に置いていただきたい。

委員：アクションプランに関係ないかもしれないが、認知症サポーターの話とその回答、すべての人にと意識でやってもらえることはとても良い。私が聞き及ぶ範囲だが、車椅子利用者への対応がまちまちであると耳に入る。例えば、交通政策課とかはおいでんバスとかの事業者、当事者の団体にコミュニケーション研修を委託している。そういうことをして職員全員が同じレベルのスキルを身に着けるのは多分無理であるので、コミュニケーションで解決できるのであれば、そこをやったほうがいいのではないかな。

事務局：今まで当事者団体から研修を受けるということを考えてこなかった。検討するといいい。

委員：子どもたちは学習用タブレットの操作に長けてきている。身近な図書館が学校しかないような地域がある。このタブレットから、中央図書館などの本が借りられたら素敵。地域の学習をするときに地域の交流館に行く。地域の交流館どう

しがネットワークでつながるということを考えているか。

事務局 : 地域の交流館どうしもネットワークでつながっている。図書館システムで資料検索もできるし毎日配送便も走らせているので、他の交流館からの取り寄せも可能。

委員 : 令和7年度の主な取組(1)、イに関してはアクションプラン2①の事業の中に入っているのかなと思う。アとウに関して、どの事業に属しているのか。新たな事業か、従来の事業か。そうであれば、ウの具体的にどのような活動をしたか知りたい。

事務局 : ア、ウについては、こども読書活動ではなく、一般の人を対象にした事業であることを説明。

指定管理者 : ウ自動車資料の活用促進のため、他の専門図書館等と連携した魅力発信のPR実施について、7月後半に展示企画を計画している。トヨタ博物館クルマの図書室と連携して、トヨタ自動車社員の選書を展示してクルマの魅力を発信する。このような展示企画を両館でやることによって面白味がでるのではないかと。専門図書館と一緒にやるのは今年からで、新しい企画である。

事務局 : 取組項目はすべての年代が対象で、アクションプランは0～18歳が対象。令和7年度の主な取組(1)ア保育士による子どもの一時預かり実施はアクションプラン2①11の令和7年度取組計画欄に記載したとおりで、新たな事業である。どちらかということ母親が子どものために絵本を選んだり、自身の本を選んだりして、少し図書館で息抜きでき、いい効果があるのではないかと今年から実施するもの。

委員 : ウの自動車資料については、子どもたち向けにこれから検討していただけるとありがたい

指定管理者 : そうですね。

### (3) 豊田市こども読書活動アクションプランの改定について

事務局 : 説明

委員 : 最終決定はいつか

事務局 : 3月の協議会で決めたい。

委員 : それまで、アイデアや質問などいただくということ。

委員 : (1) 最終3行 子どもの読書離れを感じる。長男20歳、一番下の子中1、上の子は結構読むけど、下の子は読まなくなっている。それを、図書館とかそういうとこだけで推進していくのはなかなか難しい。やはり、人の力を借りていくということ。

妻が学校に読み聞かせに行く。絵本がうちに 200~300 冊あるので、そこから持って行く。読み聞かせをする人の中にも車椅子利用者がいる。この人が図書館で絵本を借りたいと思っても、フロアの関係で借りられない。結局、読ませられない。そうするともったいない。しかし、設備が無理でも、接遇の仕方しだいで、借りられる。そのようにして人の力を借りると、子どもたちは絵本を楽しめる。障がいのある人にも力を借りていこうという発想をぜひ持っていただきたいと思っている。

事務局 : ありがとうございます。車椅子利用者が絵本を選びにくいという、たいへん大きな気づきを与えていただいた。今後、どうしたらよいかとかご相談しながら変えていけたらと思う。

委員 : 子どもと読書をつなぐ人をどのように支えていけるかというところで、確認しながら作っていただけたいなと思う。

委員 : 読まない人を、中高生に読ませるのは無理に近い。そうはいつでも、何とかしなければならないというところで、子どもが読書をするメリットを調べると、「言葉の力がつく、想像力、思考力が豊かになる、集中力が付く、知識が付いて世界が広がる、心が豊かになる、ストレス解消」。これがない一番のものがたぶん SNS とか、AI リテラシー等ではないかと思う。子どもたちがこういうものに触れて炎上するというのは、間違いなく増えていくなかで、ネガティブだが、読書をする解決すると結びつけるのも短絡的だが、たぶん国語の力がないと、何が言いたいかわからないし、何でこれを発言すると炎上してしまうのか分からないと思う。そういうちょっとネガティブなところを付け加えて、結果的に読書するとかいう方策。少々極端な話があってもいいかな。そういったことを結び付ける。あるいは推し活とか。分からないけど読書すると面白いなという推し活に近い方法はどうか。切り口が基本的に読書からの切り口なので、読書が好きな人には刺さるけれども、入り口になっていない人には、なかなか難しいと思う。不読率で、読んでいた人が読まなくなるのを抑えるのは十分に対策があると思うんですけど、すでに読まない人を読ませるっていうのは、かなり難しい。学校でやらなくても、放課後児童クラブ、子ども食堂でそういうことやっても面白いかもしれない。読めっていわれて、読まないですよ。中高生。思春期です。部署が違うので難しいかもしれないですけども、いろんな連携も含めて、子どもたちを危険にさらさないようなことも一つ、不読率の解消になるのかなと感じる。

- 事務局 : 本当に、興味のない人に読ませるのは難しいと思っている。以前の親は、子どもに本を読みなさいと言っていたと思うが、今の保護者は、アンケートを実施すると、読む必要はないと思っている人が増えてきていることが分かる。そういう人に、いかに考え方を変わらしてもらおうとか、本当に難しいけど重要なことだと思う。ご意見いただいて、違う視点から考える必要があると感じた。
- 委員 : 子どもにとって一番身近な大人たちとなると保護者、交流館職員とか、そういうところの大人たちがどういう姿勢を示すかがとても重要になってくるので、子ども読書活動なんだけれど、そういう大人たちに向けたアピールが重要になってくると思う。  
裏面、事業 新 12 ティーンズ世代という言葉が小中高生になってしまっているところがちょっと心配で、小学校とか、中学校とか、高校とか学校っていうところに自分の居場所が見出せないでいる子どもたちがいる。この言葉で外れてしまうことになるので、ぜひ、ティーンズ世代という言葉は生かしていただきたい。
- 委員 : 行政施策なので、逆に小・中・特別支援学校と行うということだからか。
- 委員 : 黄色の 12 小中高生の声を生かしと書いてあるところ。
- 委員 : (現行の) ティーンズ世代が小中高生になっているからか。
- 委員 : 場所としてはもちろん入る。小中高に入るのはそうですが。誰の声を生かすのか、学校単位、学校っていう話になっちゃうと漏れる子どもたちが出てくることを心配している。  
第2回、3回と、このアクションプランを見ていく作業が今後も続くと思う。
- 事務局 : 次の図書館協議会には、またさらに練り上げていく。
- 委員 : これを念頭に、皆さんからご質問いただければと思う。
- 委員 : 中央図書館ではない前提で、PTAを9年くらいやっている。この頃、盛り上がっているのは、学校の図書館の蔵書がとんでもなく多い。そのなかの卒業アルバムを見ると、自分の親も同じ学校行っていて、知り合いがいるとか、意外と盛り上がる。予定の時間より長くみんな見てしまう。歴史とか、文集とか。そういうので図書館面白い。身近な人とつながれるというのも一つかなと思う。  
子どもではないが、直近でいろいろ話している中で、(現行 16)「どくしょノート」。50歳から「どくしょノート」を自前で作って、読書とか感想とか書いて、ずっと常に携帯している人がいる。シニアの人、深掘りしていくような仕掛けをしても非常に面白いのではな

いか。子どもの「どくしょノート」のシニア版みたいなもの。読書をより楽しむための自分の「どくしょノート」を見せる機会を設けるとか。いろいろの世代、子ども向けだけじゃない広がりがあるといい。

委員 : 本校でも、本を読まない生徒は全く読まない状態で、どうやって読ませるかという取り組みを続けているが、実は今年一つ取りやめたことがある。今まで夏休みに必ず1、2年生は本を一冊読んで読書感想文を書くという宿題を義務付けていたが、自由提出に切り替えた。読書感想文を書かせることが読書嫌いを生むと、世間ではそういうことも言われていて、なかなか良い手立てがないと悩んでいるところ。でも、青少年センターのボランティアの中に、図書館のボランティアがある。そういうところで生徒たちと図書館を結び付けてもらっているのがたいへん助かっていると感じる。高校生の図書館のボランティアの子たちは、具体的にどういうことをしているのか知りたいのが一つと、あとはティーンズ企画展を今、やっている、令和6年度の事業にあった。そういうところで、アイデアを出すとか、実際取り組みを作るとか、そういうところで使っていただけると高校生のためにもたいへんいいかなと思う。

事務局 : 高校生ボランティアスクールですが、豊田東高校の皆さんは、毎年かなりたくさん参加してくれている。人気があるため参加できないという話を受けたので、今年は定員を増やし、21名来てくれています。ボランティアなので、まず仕事を知るという意味で、(図書)の修理をしたり、配架作業をしたり、どのようにして図書館が運営されているのか、仕事体験みたいな形でやってもらうことと、もう一つ、読書に親しんでもらいたいということで、電子図書館を体験してもらっている。あとは、POPの作成で、自分の推し本のPOPを作って図書館内に本と一緒に展示すると一般の方々が結構借りてくれる。高校生がお勧めした本、お父さんお母さん世代が、高校生の息子や娘を知りたいという感じで借りてくれたり、年配の方がお孫さんの作品を見るような気持ちで借りてくれたりということがあった。あとは、ビブリオトーク、スピーチのそういう動画を募集しているので、毎回それには参加してもらっていて、推し本を、自分のトークで読みたい気持ちにさせるという3分の動画を撮って、コンテストにも出してもらったりする。そうすると、面白そうだねと、帰りには借りていってくれる子も中にはいるので、やっぱり、子ども同士で本を勧め合うということは、大人が読めと

いうよりは効果があると実感している。高校で取り組んでいただけるといいかなと思う。

委員 : では、時間になったので、事務局にお返しする。

以上